学校法人原田学園　鹿児島医療技術専門学校

令和４年度　自己評価結果報告書

令和５年８月７日(月)

令和５年度 第５回 運営会議

目　　次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2

Ⅰ. 学校の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3-5

Ⅱ. 評価項目の達成及び取組状況（令和４年度　自己評価結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・P6-36

1.　教育理念･目標　（P6）

2.　学校運営　（P9）

3.　教育活動　（P13）

4.　学習成果　（P18）

5.　学生支援　（P22）

6.　教育環境　（P27）

7.　学生の受け入れ募集　（P29）

8.　財務　（P32）

9.　法令等の遵守　（P34）

10.　社会貢献･地域貢献　（P36）

11.　国際交流　（P38）

はじめに

本校では，学校教育法第42条及び学校教育法施行規則 第66条に従い，学校運営及び教育活動の活性化と質の向上に向けて自己評価を行っております.

令和4年度自己評価については，「専修学校における学校評価ガイドライン（平成25年3月文部科学省）」に示されている以下の11項目について，令和5年度 事業計画に基づき，令和5年5月-6月にかけて関係する委員会（内部組織）が評価を行い，7月に本校にて学校評価を運営する評価委員会にてまとめ，令和5年8月7日に本校の意思決定機関である運営会議に提案・承認されました.なお，この自己評価結果報告書を本校ホームページに掲載することで，広く社会に公開しているところです.

また，関係業界，大学，高等学校，地域住民，卒業生，保護者などの学校関係者により構成された学校関係者評価委員会に提案し，適切に説明責任を果たすとともに，この学校関係者評価に基づき，特色ある学校づくりを進めて参ります.

【評価項目と担当委員会等】

項目番号	評価項目名	担当委員会等(内部組織)					
項目１	教育理念・目標	校長運営室	教育委員会	広報委員会			
項目２	学校運営	校長運営室	財務委員会	情報システム委員会	広報委員会		
項目３	教育活動	教育委員会	校長運営室	評価委員会			
項目４	学習成果	教育委員会	校長運営室	学生委員会	就職委員会		
項目５	学生支援	学生委員会	校長運営室	教育委員会	就職委員会	広報委員会	Info Clipper 委員
項目６	教育環境	教育委員会	財務委員会	衛生委員会			
項目７	学生の受け入れ募集	入試委員会	校長運営室	財務委員会	広報委員会		
項目８	財　　務	財務委員会	校長運営室	情報システム委員会			
項目９	法令等の遵守	評価委員会	校長運営室	情報システム委員会			
項目 10	社会貢献・地域貢献	広報委員会	学生委員会				
項目 11	国際交流	校長運営室					

近年では，令和2年4月施行の高等教育の修学支援新制度（大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号））や専修学校の専門課程における職業実践専門課程（平成25年8月文科省告示第133号）において，専修学校における質保証・向上に資する取り組みが求められている状況です.

そのような中，エビデンス(根拠)に基づき，教職員全体で取り組むことで学校運営及び教育活動の活性化と質の向上に今後も繋げていく所存です.

鹿児島医療技術専門学校
評　価　委　員　会

Ⅰ. 学校概要

【学校名】

学校法人原田学園　鹿児島医療技術専門学校

【所在地】

・平川キャンパス(診療放射線技術学科，作業療法学科，理学療法学科，言語聴覚療法学科)

鹿児島市平川町字宇都口5417-1

・谷山キャンパス(看護学科，介護福祉学科)

鹿児島市東谷山3丁目31番27号

【設置する課程，学科，定員，修業年限】

課　程	学　科	区　分	入学定員	収容定員	修業年限
医療専門課程	看護学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	診療放射線技術学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	作業療法学科	昼間部	40 名	160 名	4 年
	理学療法学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	言語聴覚療法学科	昼間部	40 名	160 名	4 年
教育･社会福祉専門課程	介護福祉学科	昼間部	40 名	80 名	2 年

教 育 理 念

深い人間愛の精神を基本として，人間尊重の理念に基づいて人格の形成を目指し，豊かな人間性と教養を備え，進展する医療･保健･福祉に対応できる知識と技術をもって，実践できる有能な人材を育成する.

校 是

若人達よ　心と智慧を磨け
郷里を愛し　弱きを温かく見つめ
果敢に行動せよ
そして地球規模の医療人であれ

校 訓

一，　自律 ・ 仁愛
二，　礼節 ・ 信義
三，　忍耐 ・ 挑戦
四，　感謝 ・ 共働

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

鹿児島医療技術専門学校では医療・保健・福祉の分野における充分な知識と技能を持ち，地域と人々の福祉と健康に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材を育成するために，以下の能力を持つ学生を求めます.

（1）本学の教育理念を理解し，地域社会に貢献する強く優しい意志を持つ者.

（2）修学のための意欲を有し，夢と目的を達成するために積極的に学ぶ意思を持つ者.

（3）主体性を持ち，様々な人たちとの議論を行い，知識と実践経験を高めていく意欲のある者.

（4）他者の立場を考え，他者を思いやる心を持ちながらコミュニケーションを図ることができ，他者の幸せや喜び，痛みを理解できる者.

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

広い視野で心豊かな，意欲的で高い能力のある人材を育成するためには，指定規則で定められたものや，それを補完するもの，そしてそれらを体系的に修得することで，豊かな人間性と高い使命感や倫理観，基礎知識と技能，態度を習得し，さらに将来にわたって自己研鑽できる人材を育成します.

（1）教職員と学生，学生相互の信頼関係を築き，互いの人格を尊重し，幸せという人間の感性を育む教育を推進します.

（2）教員と外部講師が持つ多様な専門性を積極的に活用して質の高い教育を実行し，教員の質と指導力の向上を図り，学生一人ひとりの能力，特性及び個性を伸ばします.

（3）高度で専門的な領域に進むために基礎的な知識や技術を修得し，専門職業人としての社会的責任を養うための教育を行います.

（4）理論と実践応用力，研究活動に必要な知識や技術を修得するための専門的教育を行います.

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

鹿児島医療技術専門学校は，進展する医療・保健・福祉に対応できる質の高い知識と技術の教育を目指し，実践力をもつ有能な人材を育成します.そして各学科で定めた所定の単位を修得し，所定の能力を備えた学生の卒業を認定し，学位（高度専門士及び専門士）を授与します.

（1）幅広い知識や教養と優れた判断力を持ち，豊かな人間性を兼ね備えている.

（2）高い専門性と倫理性をもって社会へ貢献する強い意志と自覚を持ち，現場のスペシャリストとして活躍していく意思がある.

（3）他職種を理解し，他者とのコミュニケーションを図り，主体的に課題解決をしていく姿勢がある.

（4）技術の進展と自身の職務との関連性を理解し，専門職としての順応性を有する.

Ⅱ. 評価項目の達成及び取組状況

令和 4 年度　自己評価結果（評価項目の達成及び課題･今後の改善方策等）

1.　教育理念･目標

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料･データ等）			令和 3 年度 学校関係者
			校長運営室	教育委員会	広報委員会	
1	理念･目的･育成人材像は定められているか	3	本校では、教育理念及び 3 つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を定め、理念･目的･育成人材像を明確にしている. 【データ】 ･教育理念（HP 掲載） ･3 つのポリシー（HP 掲載） ･校長メッセージ（HP 掲載） ･期待する卒業生像	教育理念から目標、3 ポリシーについては、明確に定められている. また、各学科でも期待する卒業生像を検討しており、専門分野の特性も明確に示している. なお、教育目標･3 ポリシーについては、全体職員研修で検討している途中である. 【データ】 ･鹿児島医療技術専門学校　教育理念 ･鹿児島医療技術専門学校　3 つのポリシー ･パンフレットの MESSAGE ･期待する卒業生像 ･全体職員研修会の記録		3.5
2	学校における職業教育の特色は何か	4	医療福祉施設と密接に連携した体制の下、より高度で専門的な知識･技術･態度を修得するために積極的に最先端の技術にも挑戦するとともに、豊かな人間力を備えた人材育成に努めている. ･職業実践専門課程認定校 （※県内医療系専門学校認定 2 校） ･4年課程カリキュラムによる高度専門士取得 ･質の高い教育環境（最新設備、県内外約 400 箇所の臨床実習施設、多職種連携教育等） ･産学連携による多職種連携教育への VR 教育システム導入	各職種において、学内での知識･技術･態度の獲得を行い、臨床（臨地）実習において、実践的な思考力･判断力･学んだ技術の応用など、実践に即した職業教育が行われている. また、教育理念に基づき、人間性および人間力を有する豊かなプロフェッショナルを目指す人材育成に努めている. また、新たに文部科学省の先端技術利活用研究にも取り組み、コロナ禍での臨地実習不足を補えるような VR 作成も行っている. 【データ】 ･4 年課程カリキュラムによる高度専門士（※県内唯一）および専門士の称号付与 ･職業実践専門課程認定校（※県内医療系専門学校認定 2 校） ･質の高い教育環境（最新設備、県内外約 400 ヶ所の優れた臨床実習施設、チーム医療学習等） ･先端技術利活用研究		

3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	地域の住民や高校、関連医療福祉施設関係者が参画した学校関係者評価委員会を年1回開催し、貴重な意見を拝聴した上で、これらのニーズを踏まえた事業計画を策定している. ・令和 5 年度事業計画 ・学校長メッセージ(HP 掲載)	社会のニーズを踏まえるため、関係する職能団体や臨床における実践者の方々を委員として、学校関係者評価委員会(年 1 回)や教育課程編成委員会(年 2 回)を開催して意見を頂いている. また、「人生 100 年時代」の未来を支えるチーム医療で輝く人材を育てたいという 4 つのメッセージも掲げている. 【データ】 ・令和 4 年度 事業計画 ・パンフレットの MESSAGE		
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	学校の理念、目的、育成人材像、特色等について、学生便覧、学校パンフレット、ホームページに掲載し、学生や保護者に周知している. また、オープンキャンパスや進学相談会等で入学検討者にも説明している. ・2023 年度入学者募集パンフレット ・情報公開(HP 掲載) ・学生便覧	教育理念から目標、3 ポリシーについては、明確に定められている. また、各学科でも期待する卒業生像を検討しており、専門分野の特性も明確に示している. なお、教育目標・3 ポリシーについては、全体職員研修で検討している途中である. 【データ】 ・鹿児島医療技術専門学校 教育理念 ・鹿児島医療技術専門学校 3 つのポリシー ・パンフレットの MESSAGE ・期待する卒業生像 ・全体職員研修会の記録	理念、育成人材像(3 つのポリシー)や特色について、学生便覧、学校パンフレットやホームページにて学生・保護者等に周知している. また、入学希望者にはオープンキャンパスや進学相談会等で説明を行っている. 【データ】 ・令和 5(2023)年度入学者募集 学校パンフレット ・学生便覧 ・本校ホームページの学校紹介ページ(情報公開)	3.5
5	各学科の教育目標，育成人材像は，学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、本校教育理念及び 3 つのポリシーを基に、教育課程編成委員会や臨床実習指導者会議等の実施により関連業界のニーズを十分把握考慮した上で定めている. 【データ】・学科教育目標(HP 掲載) ・リハビリテーション教育評価機構による教育評価認定(PT・OT・ST)			

① 課題(校長運営室)

項目 1:教育理念及び 3 ポリシーについて、アセスメント等も考慮した見直しが必要である.

項目 2～3:特になし

項目 4:保護者への周知について確認する手段が十分に整備・検討されていない.

項目 5:特になし.

① 課題(教育委員会)

項目 1:教育目標、3 ポリシーの見直し中、検討中である.

項目 3:社会の情勢やニーズを踏まえた将来構想を検討する.

項目 5:業界のニーズを踏まえた更なるカリキュラムの検討

① 課題(広報委員会)

項目 4: 昨年度改善方策として掲げた, 学生・保護者の周知の程度を確認する手段が具体的な検討が進んでいない.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1:令和4年度から3か年計画で、教育委員会を中心に全体教職員研修会を実施し、全教職員で 3 ポリシー等の見直しを行い、同時に各学科のポリシーの再検討も行う.

項目 2～3:特になし

項目 4:保護者への周知方法について引き続き検討する.(Web ポータルを利用して、保護者にアンケート URL を送付して回答してもらう など)

項目 5:教育課程編成委員会及び臨床実習指導者会議等を継続し、社会や関連業界のニーズが反映されているかを継続的に検証していく.

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 1:全体職員研修での意見を取りまとめ、教育目標や 3 ポリシーを明確にしていく.

項目 3:将来構想についての職員の意見を聴取する

項目 5:外部の意見を取り入れたカリキュラムの見直し、作成を行う

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 4: 周知の程度の確認手段(Google フォーム等による学生への Web アンケート, Web ポータルによる保護者アンケート等)を具体的に検討し, 実施する.

2.　学校運営

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度 学校関係者
			校長運営室			
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	本校の目的に沿った運営方針を事業計画書に示し、直面する課題を明確にして目標を定め、これに対応する運営方針を策定している. 【データ】 ・令和 4 年度事業計画書「三、年度事業計画について」			3.3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画書に示された運営方針に沿って、令和 4 年度の事業計画を具体的に策定している. 【データ】 ・令和 4 年度事業計画書「Ⅱ. 令和 4 年度事業計画」			
3	運営組織や意思決定機能は，規則等において明確化されているか	4	学則第6章「教職員組織及び運営」において、教職員組織（運営組織）や運営に関する意思決定機能等を明確にしている（運営会議、各委員会の設置含む）. ①本校の決議機関である運営会議運用申し合わせ」の策定 ②各学科での合格選考予備会議の策定 ③委員会設置：10 委員会（財務、教育、学生、入試、広報、衛生、評価、就職、情報システム、Info Clipper 専門委員会）、1 プロジェクトチーム（先端技術利活用実証研究プロジェクトチーム） 【データ】 ・学則 第 6 章（第 32 条 教職員組織、第 33 条 運営） ・①・②・③に関する各種規程			
4	人事，給与に関する規程等は整備されているか	4	就業規則第 6 条から 12 条（採用・異動等）、第 23 条から 27 条（労働時間・休憩及び休日）、第 28 条から 33 条（休暇）、第 55 条から 72 条（賃金）、第 73 条から 75 条（定年、退職及び解雇）について等規定し整備している. また、教職員が常に確認できるように各キャンパスに備え、かつ Teams で閲覧可能にしている.			

5	教務，財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各学科等で審議された教務、財務等に関する事項は、さらに関係する 10 委員会に諮られ、そこで決議された事項は、さらに本校の最高意思決定機関である運営会議に諮られて決定する体制を整えている. 【データ】 ・会議規程、運営会議運用申し合わせ ・(財務) 財務委員会規程、(教務)教育・学生委員会規程	財務委員会 ・教務：学科⇒委員会⇒校長室⇒運営会議と承認プロセスが確立，整備されている. ・財務：予算要望⇒学園本部との折衝⇒理事会・評議員会のプロセス. 予算要望についてもプロセスが確立，整備されている. また，職務権限規程を整備し承認権限についても整備されている. 【データ】 会議規程，運営会議申し合わせ，職務権限規程		3.3
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	地域社会に対する本校の社会的責任として、外部の方々に対して複数の場を設定し、学校運営や教育活動内容等に関する報告を行い、ご意見を頂戴している. また、学園としてコンプライアンス室を設けて法の順守体制を整えている. ・学校関係者評価委員会(年 1 回 8 月) ・教育課程編成委員会(年 2 回 8 月・2 月) ・臨床実習指導者会議(年 1 回 3～5 月) ・広報委員会(年間通して活動)		広報委員会 学校の社会的責務として、外部に対し次の機会等で学校運営及び教育活動の報告や意見を求めている. また、学園としてコンプライアンス室やホットライン窓口を設置している. 【データ】 ・学校関係者評価委員会(年 1 回 8 月) ・教育課程編成委員会(年 1 回 8 月・2 月) ・臨床実習指導者会議(年 1 回 3～5 月) ・広報委員会(年間通して活動)	
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	文科省「情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、①概要②目標・計画③教育④就職⑤組織⑥支援⑦財務⑧評価に関する最新情報を本校 HP にて公開している.	情報システム委員会 文科省「情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、①概要②目標・計画③教育④就職⑤組織⑥支援⑦財務⑧評価に関する最新情報を本校 HP にて公開している. 【データ】 ・本校ホームページ専用ページ「学校紹介：情報公開」		

8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	・リモートアクセスシステムを利用した在宅勤務 ・「Zoom」を活用した遠隔授業 ・「Teams」を活用して教職員間で情報の共有化を図ると共に、休講や新型コロナ等の通知を学生に一斉連絡。 ・出張・校外勤務伺、伺書、経費申請の電子申請化 ・勤怠システム導入	・Teams 等のコミュニケーションツールの活用 ・校内サーバーや office365 を用いたファイル共有の利便化 ・備品管理システムの運用 ・info Clipper による学務管理（出席・成績管理，証明書等の発行など） ・教職員の各種申請書類（出張校外勤務伺，伺書，経費申請）の電子化によるペーパーレス化 ・Zoom を活用した遠隔授業の実施および実施回数の把握 ・リモートアクセスシステムを利用した在宅勤務の実施. ・勤怠管理システムによる業務効率化・ペーパレス化		

① 課題（校長運営室）

項目 1～8：特になし.

① 課題（財務委員会）

項目 5：特になし

① 課題（情報システム委員会）

項目 7：特になし

項目 8：

1. 整備されているシステムを円滑に活用できる教職員のスキルについてばらつきが見られる.
2. ペーパーレス化は進んでいるが，全ての手続きが電子化されていない.（学級費・実習費使用届，学生の申請書類等）
3. インターネットが繋がりにくいことがある.

① 課題（広報委員会）

項目 6：特になし

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1～7:特になし

項目 8:今後も、すべての申請・承認に関する情報システム化が進むように、各手続きごとに電子化が可能かを検討する. 項目 8:ネットワーク管理部門(業者)との協力体制を整え,
ネットワーク環境の改善を図る.

② 今後の改善方策(財務委員会)

項目 5:特になし

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 7:特になし

項目 8:

1. システム活用の方針検討, 事例紹介などの情報発信, マニュアルの作成, スキルアップ研修等を実施する.
2. 全ての手続き(学生の申請書類含む)について電子化可能かを検討する.
3. ネットワーク環境の改善(Wi-Fi 含む)に掛かる費用を算出して, 対応が可能か検討する.

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 6:特になし

3.　教育活動

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度
			教育委員会	校長運営室	評価委員会	学校関係者
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	教育課程については、教育理念から各学科で教育目標・期待する卒業生像などを策定し、カリキュラムを編成している．また、教育課程編成委員からの意見も踏まえカリキュラムが実施されているが、学校としての 3 ポリシーの見直しや各学科での 3 ポリシーの策定を検討中である． 【データ】 ・学則（教育課程表） ・教育課程編成委員会（令和 4 年度：8 月、3 月実施） ・令和 4 年度全体職員研修会の記録	教育課程については、教育理念をもとに教育課程編成委員会や実習指導者会議、講師会議等での意見も踏まえて、各学科で編成・実施している．令和 4 年度の全体職員研修においても、教育理念および 3 ポリシー（アドミッション・ディプロマ・カリキュラム）策定に取り組んでいるが、明確な実施方針を示すまでに至っていない． 【データ】 ・学則 ・令和 4 年度教育課程編成委員会議事要旨 ・令和 4 年度全体職員研修会の記録		3.8
2	教育理念，育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	教育理念から各学科の教育目標・期待する卒業生像（年次目標）が明確に設定されており、人材育成の目標も提示されている．高度専門士、専門士としての学習時間も十分に確保できている． 【データ】 ・教育課程編成委員会（再掲） ・教育課程表・期待する卒業生像（年次目標）	教育理念に基づく各学科の育成人材像や教育到達目標が明確に設定されており、さらに業界のニーズも踏まえた再検討も行っている．また、高度専門士・専門士としての学習時間も十分確保している． 【データ】 ・各学科教育目標（HP 掲載） ・カリキュラムマップ（HP 掲載）		
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	規程規則に准じカリキュラムが体系的に編成されており、承認も得ている．また、職業実践専門課程の認定も受けている． 【データ】 ・教育課程表及びカリキュラムマップ（HP 掲載）	指定規則に准じカリキュラムが体系的に編成されている． 【データ】 ・教育課程表（HP 掲載） ・カリキュラムマップ（HP 掲載）		

4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	特別講義的な職業ガイダンス等は実施されているが、全学科でのキャリア教育に関して、カリキュラムに設定されていないが、令和 4 年度からのカリキュラムにおいて、看護学科・診療放射線技術学科・言語聴覚療法学科の 3 学科ではカリキュラムに位置づけられた. また、その他の学科においてもカリキュラムに位置付けられるように検討中である. 【データ】 ・教育課程表(再掲) ・FD 研修・研究授業 ・教育課程編成委員会(再掲)			3.8
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により, カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	講師会議や実習指導者会議等での外部からの意見等から意見交換は行われており、カリキュラムへ反映されるように検討を行っている. 【データ】 ・講師会議(令和4年 3 月実施) ・実習指導者会議(令和4年 3 月−令和 2 年 5 月)	講師会議、実習指導者会議、教育課程編成委員会等で、外部関係施設等と意見交換を行い、カリキュラムの再検討に反映させている. ・講師会議(年 1 回 3 月実施) ・教育課程編成委員会(年 2 回 8 月・2 月) ・臨床実習指導者会議(年 1 回 3～5 月)		
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ, 実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	職業教育(臨床実習等)については、カリキュラムへ体系的に位置づけられていて、各学科において十分な評価も行われている. 【データ】 ・実習計画(各学科) ・実習要綱〈実習マニュアル〉(各学科)			
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	講義終了後の学生からの授業評価を実施し、授業評価を外部講師も含めた全講師へフィードバックすることが行えている. 【データ】 ・授業アンケートの実施結果		授業評価を外部講師も含めた全講師へフィードバックすることが行えている. 【データ】 ・授業アンケートの実施結果	

8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会、実習指導者会議等での意見交換をもとに、実習等に対する評価を頂いている. 【データ】 ・教育課程編成委員会(再掲) ・講師会議(再掲) ・実習指導者会議(再掲)		教育課程編成委員会，実習指導者会議等での意見交換をもとに，講義内容や実習等に対する評価を頂いている. 【データ】 ・教育課程編成委員会(再掲) ・講師会議(再掲) ・実習指導者会議(再掲)	3.8
9	成績評価・単位認定，進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4	学習評価に対しては、学則細則の中で明確に定めている. 【データ】 ・学則(第 4 章)、進級規程、卒業規程	学習評価に関しては、学則細則の中で明確に定めている. また、シラバスにより各科目の認定評価も明確にしている. 【データ】 ・単位認定及び修得認定規程(HP 掲載)		
10	資格取得等に関する指導体制，カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	資格取得に関しては、学内で国家試験対策委員会を立ち上げ、国家試験全員合格を目指して、各学科で国家試験不合格の解消に向けた取り組みを実施している. また、指導体制等も機能している. しかし、昨年よりも合格率は下降した学科もあり、今年度も全体研修会でのテーマとして「国家試験対策」を取り上げて全教員で再検討を行う. カリキュラムに関しても明確な位置づけではないが、科目の内容に含んでいる. 【データ】 ・FD/SD 研修(国家試験不合格の解消に向けた取組み) ・教育課程表 ・国家試験対策(補講)の実績	従来の国試対策に加えて、さらに国家試験対策小委員会を設置し、国家試験全員合格に向けた各学科の取り組み内容を学科を超えて協議するとともに、平日夜間 21 時までの教室開放、土曜日の教室開放、国試対策補助員の導入を行うなど、全校挙げての受験指導体制を整え実行した. ・FD/SD 研修(国家試験不合格の解消に向けた取組み) ・各専門職国家試験合格実績・補習の実施等		
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	指定規則に準じて教員資格を要した教員を採用しており、人数配置も指定規則に則っている. 【データ】 ・令和 4 年度研修計画 ・外部講師名簿一覧	指定規則に準じて教員資格を要した教員を採用しており、人数配置も指定規則に則っている. 【データ】 ・教員名簿 ・外部講師名簿		

12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含む）を確保しているか	4	各分野でその分野に精通した講師への依頼と臨床経験のある講師の確保が行えている. 【データ】 ･外部講師名簿一覧	各分野でその分野に精通した講師への依頼と臨床経験のある講師の確保が行えている. 【データ】 ･教員名簿 ･外部講師名簿		
13	関連分野における先端的な知識･技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	学内における FD 研修の実施や、各教員年 1 回の外部への研修を義務付けており、質向上に向けての取組みが行えている. 【データ】 ･FD 研修及び教育研修会	学内における FD 研修の実施や、年 1 回の外部への研修を義務付けており、質向上に向けての取組みが行えている. また、学内研修の他、年 1 回の外部研修を義務化している. また学生、教員問わず、学会での参加･報告を積極的に行い知識･技能の研鑽または先端的な知識･技能を習得するための活動を行っている. 【データ】 ･FD 研修及び教育研修会		3.8
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	学内における FD 研修･教育研修会を実施している. 【データ】 ･FD 研修及び教育研修会	学内における FD 研修･教育研修会を実施している. 【データ】 ･FD 研修及び教育研修会実施記録		

① 課題（教育委員会）

項目 1：現状に応じた教育目標･ポリシーの作成が必要である.

項目 4：キャリア教育をカリキュラムに体系化されていない.

項目 5：関連分野と連携したカリキュラムの作成.

項目 10：国家試験出題基準を踏まえたカリキュラムの検討

① 課題（校長運営室）

項目 1：現在、教育課程･実施方針についての再検討に取り組んでいるため、この間は引き続き従来の教育課程･実施方針により行う.

項目 2･3･5･9：特になし

項目 10： 国家試験合格率の更なる向上.

項目 11～14：特になし

① 課題（評価委員会）

項目7：前期終了時，後期終了時に授業アンケートを実施できているが，集計作業においてソフト面・ハード面の影響により，講師へのフィードバックまでにタイムラグがある.

② 今後の改善方策（教育委員会）

項目 1：新しい教育目標・ポリシーの作成に向けた検討を実施している最中である.

項目 4：カリキュラムの中へキャリア教育を体系化できるように検討を行う.

項目 5：各学科で現状のカリキュラム評価を実施し、関連分野の意見を考慮したカリキュラムの検討を行う.

項目 10：現状のカリキュラムと国家試験出題基準との内容精査を行う.

② 今後の改善方策（校長運営室）

目 1：令和4年度から3か年計画で教育理念及び 3 ポリシーの再検討を行っているため、完了までは従来の教育課程・実施方針により行う.

項目 2・3・5・9：特になし

項目 10：国家試験対策委員会を設置するとともに、全体教職員研修会を開催し各学科の対策を共有・検討し、全校挙げて高合格率継続維持のためのシステム作りを行う.

項目 11～14：特になし

② 今後の改善方策（評価委員会）

項目 7：授業アンケートのフィードバックを有効に活用すべく，教育委員会とも協議・連携を行いながら，年間のスケジューリングを行い講師の振り返りに役立てる.

4.　学習成果

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度 学校関係者
			教育委員会	校長運営室	就職委員会	
1	就職率の向上が図られているか	4			令和４年度就職実績一覧（別紙添付）	2.9
2	資格取得率の向上が図られているか	3	国家試験対策に関しては、小委員会を立ち上げ、学生の希望を取り入れた環境づくりが行った．また、各学科での取り組みや対策等の検討が行われたが、結果として、全国平均や昨年度の合格率を下回る学科もあった．今後、全体職員研修や国試対策委員会を中心として、国家試験への対策を再検討して合格率の向上を目指す． 【データ】 シラバス、教育計画、国家試験の合格率 国家試験対策（補講）の実施、個別指導			
3	退学率の低減が図られているか	2	退学率の軽減に向けての取組みを各学科で検討しているが、メンタル的に難しい学生が増えている．また、コロナ禍でのオンライン授業の影響もあるのか、結果としては前年度と同様の結果であった．今後のフォロー体制の検討も必要である． 【データ】 退学率、留年率等の調査 学生指導報告書、欠席日数の把握	重要課題として、各学科とも退学率の低減方法を策定し実行している．学科一丸となって取り組んだ結果、昨年度より退学者は減少した（36 名・3.8％➡31 名・3.2％）が、まだまだ多いと言わざるを得ない． 【データ】 ・退学率 ・退学者推移 ・学生指導報告書		

4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2		学生委員会 在校生：学内外における各種表彰、学会発表の把握 RT：令和 4 年度 放射線取扱主任者試験（合格者：第1種→5 名、第 2 種→1 名）、大学院合格者（3 名：帝京大学大学院（福岡キャンパス）、群馬県立県民健康科学大学大学院、東北大学大学院） ST：鹿児島県失語症者向け意思疎通支援者の認定 PT：鹿児島大大学院合格 卒業生： RT：RSNA（北米放射線学会） 学会発表、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師取得、磁気共鳴専門技術者認定取得 PT：理学療法科学掲載 OT：:認定作業療法士資格取得 NS：:ホームカミング実施	一部の学科では，カリキュラム評価として卒業生の研修等を実施しているが，全学科で実施できるように検討が必要である. 【データ】 在校生：学内外における各種表彰，学会発表の把握 卒業生：特になし	2.9
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し，学校の教育活動の改善活用がされているか	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、卒業生への施設訪問も滞り、また、同窓会の実施も中断している。卒業生の把握ができていないのが現状である。		一部の学科では，カリキュラム評価として卒業生の研修等を実施しているが，全学科で実施できるように検討が必要である. 【データ】 在校生：学内外における各種表彰，学会発表の把握 卒業生：特になし	

① 課題(教育委員会)

項目 2:国家試験の 100%合格

項目 3:退学率が減少していない.

項目 5:卒業生の動向把握が行えていない.

① 課題(校長運営室)

項目 3:①コロナ禍でも対面での授業を原則とした結果、昨年度より退学者の総数は減少したが、まだまだ少ないとは言えない. また、学業不振による退学者は大幅に減少したが(4割減)、目的意識希薄化に伴う進路変更による退学者は逆に増加した(6割増)ことが課題である.

項目 3:②職業理解や学習内容について、入学前と入学後のギャップ(特に学習内容)に個人差がある. 国家試験合格率が高いことから、殆どの人が合格できるレベルであると勘違いしているのではないか.

① 課題(学生委員会)

項目4:・在校生の把握はできるが、卒業後の状況を把握する機会が少ないため十分な把握は困難である.

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握する方法をもっと明確にする必要がある.

① 課題(就職委員会)

項目 4.5:コロナ渦で同窓会等にて集まる機会がないため調査方法等の検討が必要である.(継続課題)

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 2:全学科全員合格を目指して、対策の再検討を行う.

項目 3:退学率の減少に向けて、低学年の学力向上の検討、メンタル面のフォローの強化、保護者との連携を強化する.

項目 5:新卒者の現状把握から始め、同窓会と連携しながら卒業生の動向を把握する.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 3:①・②入学当初から医療福祉従事者としてのモチベーション向上に向けたキャリア教育及び学習面、精神面のフォロー、保護者との連携等に関する対策を、これまで以上に検討する必要がある.

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目4:・新型コロナウイルス感染拡大のため自粛していた同窓会の開催.

・各種専門領域の学術誌を確認する.

・社会的な活躍及び評価に対する基準を定め、ホームページなどを活用し、奨励金などで卒業生から自己申告で情報を集める事が出来るようにする.

② 今後の改善方策(就職委員会)

項目 4.5:臨床実習地訪問・教育課程編成委員会・就職施設訪問・就職ガイダンスなどで、情報を収集する.

5.　学生支援

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度 学校関係者
			学生委員会		就職委員会	
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4			・国家試験合格者（182/202 名 90%） ・就職 89%（179/202 名：6 名進学・17 名その他） 鹿児島県内就職割合＝73%・鹿児島県外就職割合＝24%・進学割合=3% ・学科：県内・県外・進学　　県内・県外・進学 理学：79%・19%・2%　・作業：88%・12%・0% 言語：80%・20%・0%　・放射：53%・41%・6% 看護：70%・24%・6%　・介護：100%・0%・0%	3.6
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	・スクールカウンセリングを基本的に1/週計画 （令和 4 年度実績 146 件）			
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3		校長運営室 ・高等教育修学支援新制度利用者（20.3%） ・日本学生支援機構利用者（63.6%） ・病院奨学金利用者（4.1%） ・原田学園内兄弟免除制度利用者（1.9%） ・介護福祉学科 県介護福祉士修学支援利用者（45.4%） ・留学生の学生寮費減免 ・学費分納者（7.1%）		
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	・ネットツール（Teams）で毎日の健康チェック：体温/日 ・在校生健康状況把握 （既往歴、現病歴、アレルギーなど）：1 回/年 ・健康診断：1 回/年　・抗体検査：1回以上/年 ・インフルエンザ予防接種：1 回/年 ・新型コロナウイルス抗原検査キット学校保管 ・新型コロナウイルス関連情報提供 1 回/週 ・新型コロナウイルスワクチン接種案内 ・アルコール消毒液：教室,実技室,校舎出入口等に設置 ・非接触体温計各学科に設置		衛生委員会 ・健康診断：1 回/年 ・インフルエンザ予防接種：1 回/年（希望者） ・PCR 検査・抗原検査：必要に応じて随時 ・新型コロナウイルス関連情報提供 1 回/週 ・アルコール消毒液： 教室・実技室・校舎出入口等に設置 ・サーマルカメラ：各キャンパス受付に設置 ・非接触体温計：各学科に配置	

5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	・サークル活動:1～2 回/週 ・無観客で県大会が開催された.（九州大会中止）			
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3	・1号館、2号館外壁点検、修繕 ・1号館トイレ配管洗浄 ・全館クーラーフィルター清掃 ・Free-wifiの全館設置 ・有線 LAN 主要教室に設置 ・障害者専用駐車場完備（平川校） ・防犯カメラ:平川校駐車場、谷山校校舎出入口に設置		衛生委員会 ・障害者専用駐車場完備（平川校）	
7	保護者と適切に連携しているか	3		教育委員会 学力低迷者やメンタル的に問題を抱える学生については早めに保護者との連絡を取り、保護者召喚等を実施している. しかし、連携は行えているが、退学・休学者の低減へはつながらず、増加しているために、今後の更なる連携も検討が必要である. 【データ】 ・WEB ポータル利用で学生状況確認 ・試験結果等を WEB ポータルで確認できる ・無断欠席者、成績低下者等への連絡 ・看護科4年就職保護者説明会	info Clipper 委員会 ・WEB ポータル利用で学生状況確認 ・前後期末試験結果等を WEB ポータルで確認できる :2 回/年 ・無断欠席者、成績低下者等への連絡 ・看護科4年就職保護者説明会	3.6
8	卒業生への支援体制はあるか	3	・キャリアセンター転職相談 令和 4 年度:人数 22 名 転職相談数 31 件 ・図書室利用 ・学会発表相談 ・研究の為の器具 ・機材利用 ・勉強会、学会会場等の校舎開放		就職委員会 ・キャリアセンター転職相談 令和 4 年度:人数 22 名 転職相談数 31 件 ・図書室利用・学会発表相談・研究の為の器具・機材利用 ・勉強会, 学会会場等の校舎開放 ・ST:原田カンファレンス兼同窓会(1回/2年)	
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3		教育委員会 社会人入試については特に枠を設けていないが、入試委員会において検討を行っているところである. 現在は、介護福祉学科を除く5 学科は 4 年制ということもあり、入学者は少ない状況である. 【データ】 ・学生募集要項 ・35 歳以上の入学制限の撤廃 ・職業訓練委託事業(CW)		

10	高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取り組みが行われているか	4			広報委員会 【データ】 ･高校生への職種紹介やガイダンス数(令和 4 年度:参加 181 回(うち職業理解･体験型･講義等 36 回) ･原田学園学校説明会での高校の先生方への説明(2 回) ･高校からの依頼による学校見学(3 回)	3.6

① 課題(学生委員会)

項目 4:･新型コロナ感染症が 2 類から 5 類へと移行され、健康管理そのものにおいて誤解を招く恐れがある.

･法令上の取り扱いが変わったに過ぎないという事を理解させる必要がある.

項目 5:･課外活動(サークル活動)に対しての支援(九州大会等)がない.

･学校の体育館を使用しているサークルについて使用料はない(学校負担)が、屋外競技や他の体育館を使用する場合は学生(学友会)が負担している.

項目 6:･Free-Wifi は接続の不具合は多い.

① 課題(校長運営室)

項目 3:学校独自の経済的支援体制の制度が整っていない.

① 課題(教育委員会)

項目 7:保護者との連携を強化する.

項目 9:社会人入学者への検討を行う.

① 課題(就職委員会)

項目 8:卒業生に対し, 転職相談だけでなく, 悩みに関する相談等様々な支援ができることを周知できる方法の検討が必要である.

① 課題(広報委員会)

項目 10:高校生への職種紹介やガイダンスを通して、キャリア教育･職業教育の実績はあるが、高校と本校との十分な連携(双方の具体的要望等に基づく教育)が行われているか.

① 課題(info Clipper 委員会)

項目 7

・保護者の Web ポータルへの登録状況は改善されているが、全員の登録には至っていない.（個別対応が必要である）

・登録している保護者宛に案内をしても既読になっておらず、通達がうまく行えていない.

・保護者登録を強制はできない.

・国家試験模試結果情報を伝えきれていない(学科毎の活用に温度差がある)

・学科や人によりシステム運用に違いが見られ、十分に活用されていない.

・学生ポータルの出席登録システムの順調な稼働に向けた支援が必要

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目4・ネットツール(Teams)で週 1 回新型コロナ関連情報を投稿していたので、感染症情報(仮)として定期的に情報提供を継続する.

項目 5・県大会・九州大会は学校行事の 1 つであり、また、パンフレットにサークル活動が記載され入学の判断材料にもなっている. 屋外競技利用料・試合球・旅費等の経済的支援を行ってもらいたい.

項目 6・業者に定期的に来校していただき、メンテナンスを行ってもらう.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 3:本校学生の実態からどのような支援が可能か検討するとともに、学園の財政状態にも関わる問題であることから、学園本部と一緒に検討する.

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 7:保護者との連絡が学校側からが多いので、保護者相談会(仮)の実施も検討していく.

項目 9:社会人の入学者獲得に向けて、入試委員会等での検討を行う.

② 今後の改善方策(就職委員会)

項目 8:臨床実習地訪問・教育課程編成委員会・就職施設訪問・就職ガイダンスなどで、情報を収集する。

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 10:キャリア教育の内容について, 必要に応じて事前に高校と打合せを行う.

② 今後の改善方策(info Clipper 委員会)

項目 7

・入学式など、保護者が学校に来るタイミングで Web ポータルの登録の案内を確実に行い、登録をしてもらえるように促す．必要に応じて、電話連絡等で対応する．

・国家試験委員会と共同で模擬試験情報の保護者への活用を勧める．

・出席登録システムの運用に向けた支援．

③ 特記事項(学生委員会)

項目6：1号館、5号館は洗面所がトイレの中にあるため、歯磨きを行うために利用しにくい．3号館や2号館のようにトイレの外に設置されれば利用しやすいのではないか．

6.　教育環境

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度 学校関係者
			教育委員会	財務委員会	衛生委員会	
1	施設・設備は，教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	設備や施設等に関しては、指定規則所の整備は行えている．今後の ICT 教育や各学科のカリキュラムの特性に応じた設備の対応が行えるように、特にネット環境など更なる整備の必要がある． 【データ】 ・遠隔講義設備：モニター、ヘッドホンマイク、カメラ ・医学文献検索サービスメディカルオンライン契約 ・学生用椅子 100 脚購入 ・障害者専用駐車場完備 ・全館ワックスがけ	・施設・設備の整備について，毎年度各学科から予算を提出してもらい，教育上必要な投資については郵政して承認しており，該当年度中に確実な予算執行を実施している． 【データ】予算書，執行伺書		3.6
2	学内外の実習施設，インターンシップ，海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	臨床実習施設に関しては，コロナ禍で受入れの難しい中，多くの配慮を頂き実習をさせていただいている.全学生が単位取得に影響のないように，また，カリキュラムに応じた実習施設の確保は行えている． 【データ】 ・令和 4 年度新規実習追加施設 OT5 施設（県内 5），Ns3 施設（県内 3），ST3 施設：（県内 3），　PT7 施設（県内 7），CW2 施設（県内 2） 全学科で 400 施設以上			
3	防災に対する体制は整備されているか	4			・ネットツール（Teams）での JR 運休・遅延情報の提供 ・避難訓練を1回/年実施 ・平川校：災害備蓄品（救急用品セット 20 名分×4 セット、水 500ml×61 本、20ℓ×1 個、非常食パワーバランス 2 本入 4 袋×61 個、非常用トイレ 150 回分）その他、学友会非常食「パワーバランス 2 本入 4 袋×280 個、水 500 ㎖×245 本」、緊急時飲料提供自販機 1 台設置（500～700 本程度） ・谷山校：災害備蓄品（水 500 ㎖×33 本、水 20ℓ×2 箱、非常食スーパーバランス 2 本入り4袋×33 個、携帯用トイレ 150 回分、救急用品セット 20 人分×2セット）、各学生保管「500 ㎖×2 本、非常食プレーン 3 個・チョコ・3 個・抹茶味 3 つ」 ・救急用品セット内の消毒液を買い替え（使用期限につき）	

① 課題(教育委員会)

項目 1:ネット環境など使用状況に応じた整備が必要である.

① 課題(財務委員会)

項目 1:昨年度の自己評価で, 大規模修繕に向けた引当金の設定を実施することになっていたが, 詳細な修繕計画およびその費用見積もりの取得がなかった.

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 1:学生の使用状況に応じたネット環境の整備を行う.

② 今後の改善方策(財務委員会)

項目 1:改修工事の中長期計画作成およびその予算化(第 2 号基本金への繰入)を次年度予算要望に盛り込む.

7.　学生の受け入れ募集

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">評価項目</th><th rowspan="2">評点</th><th colspan="3">各項目の評価基準（資料・データ等）</th><th>令和３年度</th></tr>
<tr><th>入試委員会</th><th></th><th>広報委員会</th><th>学校関係者</th></tr>
<tr><td>1</td><td>学生募集活動は，適正に行われているか</td><td>4</td><td>【データ】
・学校パンフレット・学生募集要項
・オープンキャンパス・進学相談会
・ガイダンスなど</td><td></td><td rowspan="2">・学校パンフレット・学生募集要項
・オープンキャンパス
・進学相談会／オンライン進学相談会
・LINE 相談会
・ガイダンス
・広報委員会、学科、企画広報室との連携（会議録・情報共有）</td><td rowspan="3">3.3</td></tr>
<tr><td>2</td><td>学生募集活動において，教育成果は正確に伝えられているか</td><td>3</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">学納金は妥当なものとなっているか</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2"></td><td>校長運営室</td><td>財務委員会</td></tr>
<tr><td>学校を安定的に運営するため、収支を確保することは非常に大切である．財務内容を分析すると、昨年度と比較し収益は悪化している．ただし、収入（主に学納金）に占める各経費（人件費・教育研究経費・管理経費）の割合は概ね適正な範囲内で、収支のバランスは取られており、学納金も妥当なものと言える．

一方、学納金の元となる学生数の推移については、ここ数年横ばいとなっている．ただし、H30 年以前と比較すると 1 割程度学生が減少しており、更に減少が進むと収支のバランスが一気に崩れる懸念があるため、学生数確保は今後の重要課題と言える．
【データ】
・財務分析（評価委員会資料）
・R4 年度事業活動収支計算書
・R5_学生数推移</td><td>・学校を安定的に運営するため，収支を確保することは非常に大切である．財務内容を分析すると，昨年度と比較し収益は悪化している．ただし，収入（主に学納金）に占める各経費（人件費・教育研究経費・管理経費）の割合は概ね適正な範囲内で，収支のバランスは取られており，学納金も妥当なものと言える．
・一方，学納金の基となる学生数の推移については，ここ数年横ばいとなっている．ただし，H30 年以前と比較すると 1 割程度学生が減少しており，更に減少が進むと収支のバランスが一気に崩れる懸念があるため，学生数確保は今後の重要課題である．
【データ】
R4 年度財務分析（評価委員会資料）
R4 年度事業活動収支計算書
R5__学生数推移</td></tr>
</table>

① 課題(入試委員会)

項目1:令和 4 年度のオープンキャンパスと進学相談会の参加者数は、令和 3 年度 629 名、令和 4 年度 563 名と 66 名減少した.

出願者数については、令和 3 年度 309 名、令和 4 年度 301 名と 8 名減少したが、入学者数は、令和 3 年度に比べて 39 名減少した.

出願者数及び入学者数の増加が今後の課題である.

① 課題(校長運営室)

項目 3:昨年度の改善策に掲げた、財政に係る中期計画の検討が進んでいない.

① 課題(広報委員会)

項目 1:対象を高校だけではなく、中学校に対する出前授業や本校見学を勧めるなどの幅広い募集活動に取り組みが不十分である.

項目 1:全体としての募集活動は適正に行われているが、入学定員に達していない学科がある.

項目 2:ホームページやパンフレットに「活躍する卒業生」が掲載されているが, 養成校時代の「何」が臨床の「何」に結びついているか(つまり教育成果)の記載が不足している.

項目 2:ホームページの更新は以前より早くなっているが, パンフレットと比べ古いデータのページも見受けられる.

① 課題(財務委員会)

項目 3:・昨年度の改善策に掲げた, 財政に係る中長期計画が検討・作成されていない.

・昨年度の改善方策に掲げた, 新たな減免制度の導入について検討を行われていない.

・物価高騰が教育研究経費・管理経費の見通しに変動を与えうると思われる.

・学生の受け入れ募集については, 広報委員会, 企画広報室があり財務委員会の役割がはっきりしない.

・学納金の設定は妥当性を見出す基準が難しい. また, 上記と同様に広報委員会, 企画広報室, その他経営に関わる部門などとの意見統合の機会がない.

② 今後の改善方策(入試委員会)

項目1:デジタルパンフレットがホームページで閲覧可能となったが、Web 出願システムの導入などオンライン化を進める.

入試委員会、企画広報室、各学科で連携を図り、学生募集活動を実施する.

今後、入試区分、特典免除の見直しをおこなう.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 3:学生数を基に、人事計画、予算案も含めた財政に係る中長期的な計画の作成を進める.

② 今後の改善方策（広報委員会）

項目 1：実施可能な出前授業を選別中であり，R5 年度後半より高校・中学校に告知を行う。

項目 1：各職種の将来的な強みや競合校との違いをより明確にして，広報活動の強化を図る。

項目 2：養成校時代の「何」が臨床の「何」に結びついているかを対象者（卒業生）にインタビューして，ホームページやパンフレットに掲載する。

項目 2：ホームページの更新内容を広報媒体小委員会で取りまとめて，更新をもっと迅速に行っていく。

③ 今後の改善方策（財務委員会）

項目 3：・学生数を基に，人事計画，予算案も含めた財政に係る中長期的な計画を作成する．

・収支バランスを分析し，新たな減免制度導入の可否を含めて検討する．

・物価高騰は短期的な見通しと考えているが，物品の折衝，光熱費等の周知と削減目標の提示を要する．中長期的には収入の増減に応じて支出も増減が起こり得ることから，経常的収入より支出を引いた差額を目標値として管理する必要がある．

・課題に対して主たる部門を定める，もしくは各委員会，室長レベルで議論する場を設ける．

8.　財務

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度
			財務委員会	校長運営室	情報システム委員会	学校関係者
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	・財務基盤の基となる学生数の令和 5 年度充足率は，R4 年度卒業年が少なかったこともあり，全体的に上昇している．ただし，これまで比較的募集が堅調であった PT が苦戦しており，リハ系全体で定員確保が難しい状況である．中長期的な財政基盤安定のため，リハ系を中心とした募集強化は必要である． ・現在の財務状況は，支出比率と言った財務指標を全国平均と比べると，短期・長期的財務状況ともに安定していると言える．ただし，昨年までと同様に積極的な投資を実施し，教育環境の充実を図った結果，貯蓄性はやや全国平均を下回る． 【データ】 R4 年度財務分析（評価委員会資料），R4 年度事業活動収支計算書，R4 年度貸借対照表	財務状況や、支出比率と言った財務指標を全国平均と比べると、短期・長期的財務状況は安定していると言える．但し、これまで積極的な投資を実施し、教育環境の充実を図った結果、やや貯蓄性に欠ける． 【データ】 ・財務分析 ・R4 年度事業活動収支計算書 ・R4 年度貸借対照表		3.3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	・予算要望は，各科目とも金額枠の申請でないため，予算要望段階において収支計画の有効性は判断が難しい．ただし，各予算の目的については段階を経て検討されており，妥当性はあると判断する．　【データ】 R4 年度事業活動収支計算書・予算（2 次補正予算）医技専	予算要望は、各科目とも金額枠の申請でないため、予算要望段階において収支計画の有効性は判断が難しい．ただ、各予算の目的については段階を経て検討されており、妥当性はあると判断する． 【データ】 ・R4 事業活動収支計算予算書		
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4		・会計監査報告書（HP 掲載）		
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4		・財務情報（貸借対照表・収支計算書・財産目録・事業報告書・監査報告書）（HP 掲載）	・財務情報（貸借対照表・収支計算書・財産目録・事業報告書・監査報告書）（ホームページ公開）	

① 課題(財務委員会)

項目 1:安定的に学生数を確保することで収入を安定させ，将来の支出に対応できるよう貯蓄性を高める.

項目 2:予算･収支計画のその有効性について，判断基準を明確にし，今後有効性を測るための分析を進める.

① 課題(校長運営室)

項目 1:適正な中長期財政基盤は、学生数の確保(入学者の増加、退学者の減少)等に大きく依存するが、少子化による影響もあり入学者が減少傾向にあること、及び退学者の解消問題が課題である.

項目 2:予算･収支計画のその有効性について、判断基準を明確にし、今後有効性を測るための分析を進める.

① 課題(情報システム委員会)

項目 4:特になし

② 今後の改善方策(財務委員会)

項目 1:学生募集については，新たな取り組みとその評価･改善を実施する. 支出の面では，経費の見直しおよび将来の投資計画を作成する.

項目 2:学園の経営見通しを教職員間で共有する機会を設け，全員で充足率改善案の検討をしたり，予算の有効性検証する場とする.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1:入学者増及び退学者の解消に繋がるあらゆる取り組みを強化するとともに、定員充足率を考慮した定員見直しも検討し、安定的に学生数を確保することで収入を安定させ、将来の支出に対応できるよう貯蓄性を高める.

項目 2:学園の経営見通しを教職員間で共有する機会を設け、全員で充足率改善案の検討や予算の有効性検証の場とする.

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 4:特になし

9.　法令等の遵守

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等）			令和３年度 学校関係者
			評価委員会	校長運営室	情報システム委員会	
1	法令，専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4		法令，専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている. 【データ】 ・養成校指定規則 ・専修学校設置基準 ・職業実践専門課程認定規程		3.8
2	個人情報に関し，その保護のための対策がとられているか	3			・原田学園　情報セキュリティポリシー ・医技専　情報セキュリティに関するルール ・医技専　個人情報保護方針 ・医技専　プライバシーポリシー ・Sky Sea によるセキュリティーシステム	
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	・各委員会等での自己評価の実施（5-6 月） ・自己評価結果報告書の作成（8 月） ・学校関係者評価委員会での自己評価結果報告（8 月） ・自己評価結果の HP での公表(8 月） 【データ】 ・令和 3 年度 学校関係者評価結果報告書 ・令和 4 年度自己評価結果一覧（前年度対比表）	自己評価の継続的実施と問題点の改善に努めている. ・各委員会等での自己評価の実施（5-6 月） ・自己評価結果報告書作成（8 月） ・学校関係者評価委員会での自己評価結果報告(8 月） ・自己評価結果を HP に公表(9 月） 【データ】 ・令和 3 年度 学校関係者評価結果報告書 ・令和 4 年度 自己評価結果一覧（前年度対比表）		
4	自己評価結果を公開しているか	4	【データ】 ・自己評価結果報告書(8 月 HP 公表） ・学校関係者評価結果報告書(8 月 HP 公表）			

① 課題(評価委員会)

項目3:委員会活動内容と照らし合わせ主管理部門，管理部門の見直しを行い、自己評価を行っているが、小項目の内容見直しや再検討の必要性がうかがえる.

① 課題(校長運営室)

項目 1:特になし

項目 3:① 課題の改善に不十分なところがある.

項目 3:① 自己評価の実施は確実に行われているが、毎年度の改善が成果として現れていない項目がある.

① 課題(情報システム委員会)

項目 2:セキュリティーポリシー・セキュリティーシステムは高い水準で設計されているが，一方で各個人がそれらを理解し、ルールに則って取り組めているかが課題である.(個人の PC 管理やロックなども不十分)

② 今後の改善方策(評価委員会)

項目3:自己評価内容について各委員会よりヒヤリングを行い，小項目の見直しの妥当性や不具合を確認し、評価内容の改善を実施していく.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1:特になし

項目 3:① 自己評価で明らかとなった課題の改善後、その検証を行い、必要に応じて更なる改善に努める.

項目 3:② 項目によっては短期的改善が見込めず、長期的に取り組む必要があるため今後も計画的に PDCA サイクルを実施していく.

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 2:情報システム委員による定期的な情報発信や研修会，セキュリティーチェックを実施する.

10. 社会貢献･地域貢献

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料･データ等）		令和３年度
			広報委員会	学生委員会	学校関係者
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3	コロナ禍によって活動の機会が減少したが，可能な限り取り組んでいた． ①職能団体研修会の開催実績（20 回） ②地域スポーツ団体への貢献（4 回） ③地域団体等への体育館や駐車場の貸し出し（35 回） ④職能団体等への施設貸し出し（2 回）		3.3
2	学生のボランティア活動を奨励，支援しているか	3		①Teams による学生へのボランティア案内（5 回） ･ボランティア支援:ネットツール（Teams）を利用して案内 ②ボランティア活動： ･令和4年度：平川 4 回参加総勢 25 名 ･谷山 3 回参加総勢 20 名 ･令和 5 年度開催予定の特別全国障害者スポーツ大会、 選手団サポートボランティアに 525 名申請 ③地域清掃活動実施（平川地区 3 回/谷山地区1回）	
3	地域に対する公開講座･出前講座の受託等を積極的に実施しているか	3	依頼のあった講座については可能な限り受託していた．また，本校主催の公開講座も開講した． ①本校主催の公開講座（1 回） ①地域団体からの依頼による講座（17 回） ②職能団体からの依頼による講座（96 回）		

① 課題(広報委員会)

項目 1･3:コロナ禍が落ち着くまでは，外部と接触する社会貢献･地域貢献活動が制限される場合がある.

① 課題(学生委員会)

項目2:学生案内を行うが、協力者が少ない. 令和 5 年度は新型コロナが感染症法上 5 類になったが、学生はボランティア活動が出来ない状況が 3 年程度続き、ボランティア活動に対する意識が低くなっている.

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 1･3:教員の業務負担を考慮しながら，感染対策に十分留意し，社会および地域と情報共有･連携を図っていく.

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目 2:ボランティア活動が就職(面接)試験に繋がることを学生に説明する. 令和 4 年度は 25 件の面接試験でボランティア活動に関する質問が行われ、公務員系や大きな病院程質問されている. ･学友会にボランティアサークル活動の案内をする.

③ 特記事項(学生委員会)

･令和 5 年度開催予定の特別全国障害者スポーツ大会に、選手団サポートボランティアに学生 525 名を申請.

11. 国際交流

評点：適切：4，ほぼ適切：3，やや不適切：2，不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準（資料・データ等） 校長運営室	令和３年度 学校関係者
1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	継続的留学生受け入れを目的に、県の介護施設等外国人留学生支援事業の継続的利用、また R3 年度には中国の濱州職業学院と留学生制度の提携を行った. ・ホームページでの留学生募集要項を掲載 ・日本語学校への留学生募集要項の配布 ・留学生用の入学試験問題作成 ・濱州職業学院との留学生制度の提携	3.1
2	留学生の受け入れ・派遣，在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	留学生についても学籍簿、出席簿を作成して在籍管理している. また、鹿児島県および就職施設との連携を図っている.	
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	アルバイト許可制度、日本語教育の補習、在留ビザ更新手続き、担任による生活指導等行っている. また、適宜面談を行い、カウンセリングを実施している.	

① 課題（校長運営室）

項目 1～3：特になし

④ 今後の改善方策（校長運営室）

項目 1～3：特になし

以上